

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)博多駅東一丁目開発計画	階数	地上10F
建設地	福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、駐車場整備	平均居住人員	2,033 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2020年6月2日
敷地面積	4,935 m ²	作成者	石井孝典
建築面積	2,939 m ²	確認日	
延床面積	29,156 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 96% (138 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 96%

④上記+ 96%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 2

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 博多駅から至近の利便性の高い敷地に計画されたテナントビルの計画である。高いレクタブル比、高い天井高による開放的な執務空間を確保すると同時に、Low-E ガラスやLED照明の採用等、環境へ配慮した計画としている。		その他 外装材にコンクリート打ち放しを大部分に採用することにより、維持管理にかかるエネルギーや資源を抑えることに寄与している。
Q1 室内環境 開口部を大きく取ることにより、自然光による十分な照度を確保可能。開口部の高い遮音性能、天井には吸音材を採用することにより、音環境へも配慮した計画としている。	Q2 サービス性能 執務室は2.8mの天井高さを確保することで快適性を追及した。内装計画による演出や維持管理に対し、十分に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地の南と北に地域へ開放された広場を設け、憩いの場を形成。地被類から高木までさまざまな樹種で豊富に緑化し、周辺環境へ緑による潤いを与える計画としている。
LR1 エネルギー 開口部はLow-Eガラスを採用することにより、ペリメーターゾーンへの日射による熱負荷を抑制し、空調負荷削減に配慮した計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器の採用、リサイクル材料の使用、建築部材の再利用可能性向上等、省資源に配慮している。	LR3 敷地外環境 附置義務以上の駐輪場の確保により、周辺地域インフラへの負荷抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される